

北谷地区市民意見交換会 議事要旨

○と き：令和4年12月10日（土）午後7時～8時45分

○ところ：北谷町コミュニティセンター

○テーマ：①性別、年齢等にとられない多くの人の参画

②地域防災について

③こども政策について

○出席者：14名

Q1	<ul style="list-style-type: none"> ・8月4日の災害では、谷の水源地がダメージを受けた。後で調べるとブナ林の中にも水漏れがあり困っている。谷住民は6人しかいないが、子どもの村小中学校には30人ほどいる。夏休み期間中なので良かった。 ・水源地の途中に養殖場があるが、管理は谷地区出身で大野市民である。市にも助けてもらったが、その中で「勝山の者ではない」という言葉があり、こういった言葉を使ってほしくない。 ・東山いこいの森はなぜ休館になったのか。早く再開してほしい。
A1	<ul style="list-style-type: none"> ・上水道については早期復旧させていただく。 ・養殖場の方とは何度も話をしており、市からは支援したいと考えている。 ・東山いこいの森の管理をされていた方が、どうしてもできないという状況の中で、現在開業できていない。再オープンの準備を進めており、準備でき次第お知らせする。
Q2	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時には誰がコミュニティセンターを開くのか。鍵の管理を誰がしているのか。 ・コミュニティセンターが避難所に指定されているが、暮見トンネルが通れなかったら、どうしたら良いのか。谷から水が出て護岸が崩れると避難道としても使えない。
A2	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターの鍵は避難所開設員がもっており、非常時にはコミュニティセンターの職員でなくても開けることができる。また、北谷町コミュニティセンターは基本的には土日でも空いている。夜でなければ空いている。 ・暮見トンネルをはじめ、一時的に通行止めになる箇所は市内にはいくつも出てくる。いろんな形で迂回路を使用していくしかない。一時的に孤立することは仕方なく、少しでも早く孤立を解消することをご理解いただきたい
Q3	<ul style="list-style-type: none"> ・谷地区は河合の橋が、最悪の場合通れなくなる。学校や谷の教会は第2の避難場所は必要だと思う。昔はかつやまこどもの村小中学校を避難場所として指定していたが、なぜ外れたのか。
A3	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には、避難所へ行けないという場合も出てくると考えられる。野向

	<p>では自主避難所を設置して、そちらに集合した。谷地区についても万が一のときは子どもの村小中学校に谷住民を受け入れてもらえるようお願いしておく。谷教会に集合することも必要だと思う。今回の災害では橋が落ちるということはなかったが、万が一にはいち早く復旧できるようにしたい。話をうかがって、ひとつずつ解決したい。</p>
Q4	<p>・ダムサイレンについて、大雨の後にはサイレンが鳴らなかった。大雨の際にはダムの放水は解放したままでサイレンは鳴らないのか。</p>
A4	<p>・一度確認する。</p>
Q5	<p>・山の中で生活基盤をはじめ、いろんなところで災害を受けているので、いつになったら直してもらえるのだろうか。予算の範囲で工事できないのであれば、復旧計画はどうなっているのか。</p>
A5	<p>・災害査定については、農林水産省と国土交通省は終了している。予算の確保と工事の発注を順次進めている。今回は災害の規模が大きく、優先順位をつけて行っている。水路の復旧や土嚢など、日常生活の最低限の確保を優先している。また、林道については、これから雪の時期になるので、来年の春頃から着工する。市外との事業者とも組みながら、いち早く復旧を進めたいと考えている。</p>
Q6	<p>・県道について、コミュニティセンターの下の道が通行止めになっている他、谷から谷峠への道も6ヶ月通行止めになっている。この道はかつやま子どもの村小中学校のマイクロバスが通る道になっており、現在大変苦労して通っている。早急に県に対応していただけないか。</p>
A6	<p>・県の方も一日も早い復旧をと返事をいただいている。作業に時間がかかっている。苦労をおかけし申し訳ないが、しばらくお待ちいただきたい。</p>
Q7	<p>・災害発生時には外に出て近所の安否確認など、なかなかできない。自分の身の危険があると出ていけないので、考慮してほしい。</p> <p>・農業用水路の詰まりを業者にもお願いしても忙しく対応してもらえていない。また、市からも補助がもらえ、地元の負担がないようにと聞いたが、来年度もこの補助金できるのか。</p>
A7	<p>・一番は自分の命を最優先で守っていただきたい。市の職員が速やかに北谷の状況に応じて、来るようにするので、まずは命を優先してほしい。</p> <p>・農業用水路の改修については、本来ならば自己負担をしてもらっているが、今回は市議会とも相談させていただき、農地に関する費用は自己負担なしになった。来年は繰り越しになるので、同じ条件でさせていただく。</p>
Q8	<p>・今年の雪の対応の件で、変わった点があれば教えてほしい。</p>
A8	<p>・大雪に備えて、昨年は30台除雪機を購入した。今年はさらに10台追加で購入した。市役所で管理しているので、必要であれば貸出する。あとは、</p>

	<p>ホームページや除雪の状況見ることができる。12月からはLINEで防災状況見ることができる。情報収集をして災害に備えていただきたい。</p>
Q9	<p>・各所で水があふれ、また大雨があるとコミュニティセンターには逃げる ことができない。どうしようもない場合はどうしたらいいのか。結局は孤立し それぞれの家でじっとするしかないのかと思う。</p> <p>・男女平等の話あったが、市役所の役員の5割を女性にする等、そういった 目標を掲げてはどうか。</p>
A9	<p>・北野津又の例では、まずは自宅の2階に避難していただいた。情報発信が 重要にはなるが、事前に避難するということも考えていく必要がある。その あたりについても十分話をしていきたい。</p> <p>・市職員の男女比率は数値を掲げて目指して実施している。また行政協力員 の中で女性を取り入れられるよう取組んでいく。様々な委員会などでは女 性を25%登用するようにしている。課長職については5割を目指してい る。それ以外の役職も5割にしなければ難しいので時間がかかるが、しっか りと目指していきたい。</p>
Q10	<p>・鯖の熟れ寿しは加エグループと提携して5年目で、区長会と市の支援で順 調にきている。ここ数年、年の市がなかったことで販売に苦勞してきた。シ ョッピングセンターやハピリンに置いてもらうなどして努力してきた。今 年は販売も心配しているが、年の市や左義長が復活したので嬉しい。市外 の方へどんどんPRしたい。商工文化課の方で、文化庁のフード100年と いう食文化を継承する申請登録をしてはどうかという話があり、担当者 に申請したところである。また、ホームページも立ち上がる予定である。PR は大変だが、市にも協力していただきたい。</p>
A10	<p>・理解した。</p>
Q11	<p>・高齢化は全国的な問題で、災害の際にお世話をした日赤や民生委員の成り 手がない。今まで民生委員をしてくださって方も次々と亡くなっている。 市全体の組織と比較して物を言うのは無理があるのではないか。</p>
A11	<p>・現在112の区があり、北谷に限らず小さい区では委員や役員を出すのが 苦しいと聞いている。行政協力員という制度を設けている。区長は地域のと りまとめという役だが、一方で行政協力員は情報提供などが主な役目で、市 の方で依頼している。小さい地区については、地区で1名ではなく複数の地 区を兼ねて1名にお願いしてはどうか、と内部で検討している。逆に大きい 地区では、区長は1人で行政協力員を3人にするなど、規模に応じて設置す るよう検討していく。区の独自性を維持しながら、市として無理のないサ ービスができるよう考えている。準備や協議も必要になるので、もう少し時 間をいただきたい。</p>

Q12	・各地区に地区社協があるが、コーディネーターの方が辞めたいとしょっちゅう相談に来る。後任の成り手がないようだ。コーディネーターの仕事の5割をコミュニティセンターの職員の方が受け持っていただけないか。
A12	・今年の4月の機構改革により、公民館をまちづくり会館として、同時にコミュニティセンターにおいても同様の業務を担うよう契約を交わした。まちづくり会館やコミュニティセンターの職員の仕事の中には、地域福祉や地域防災が原則として含まれている。コーディネーターの仕事については社協と地区社協で話をして、調整していきたい。
Q13	・豪雪の際、屋根雪下ろしを業者に頼んでいるが、なかなか来てもらえない。これまでは友達や知り合いに来てもらっていたが、高齢になって難しくなった。市にもご協力いただきたい。
A13	・雪の問題は一度に降るので解決が難しい。家そのものを克雪住宅化するなども考えられるが、やはり自助共助が一番になってくる。市の方でも職員に副業を認めて、市の除雪隊を準備している。雪の少ない地区に住む職員もいるので、一度市にもご相談いただきたい。
Q14	・さくら荘にはインド人が15人勤めている。報道機関に取り上げてもらい話題になっている。せっかく勝山に来ているので楽しみを見つけ過ぎていただきたい。各地区の行事にもこちらから参加できるように図っているが、交通手段がなく、職員で送迎している状況である。もう少し外国人が住みやすく、楽しく仕事ができるようなまちづくりを考えていただきたい。
A14	・遅羽地区でもお話が出た。未来創造課が国際交流担当で、地元の方との交流について、インドの方をモデルにいろいろと検討中である。
Q15	・中学校再編について、今の現状について教えてほしい。 ・また、検討委員会などで話し合いされていると思うが、子どもたちの意見は取り入れているのか。
A15	・学校再編については、20年前から議論が出ている。これから基本計画のパブリック・コメントを募集する。令和5年度は実施設計に入っていく、細かいことを議論し、令和9年度開校を目指している。 ・検討委員会には子どもたちが入っていないが、関係者が間接的に意見を聞きながらやっている。制服や校舎の活用については子どもたちの意見を聞いていくと思う。現時点では教育委員会の内部で検討している状況である。今回の話は教育委員会へお伝えしたいと思う。
Q16	・中学校再編に反対している方への話はどうなっているか。
A16	・反対派の方2度目の署名活動をされていると聞いている。話はいろいろとさせていただいている。個人としては、大勢の方から手紙やメールがきており、一つ一つに対応している。子どもの生まれる数を見ても、一つの中学校

	で30人を切るとなると、運営しにくい。子どもたちの声は重要だが、将来を見越すことは非常に重要だと考えている。
Q17	・災害時において、一番大事なのは逃げる判断だと思う。台風が来た際、谷の住民は個々でいるよりも良いと話し合い、寺に集まって一晩過ごした。そういった判断が必要だと思うので皆さんにもお願いしたい。
A17	・究極の時は自己判断が重要である。まずはそれを最優先で、次に地域で助け合う、確認しあうことが大事。一人で家に固辞して残っていても周りにも迷惑かかるようなことになる。それを行政がバックアップしていくような感じにしていきたい。
Q18	・北谷は勝山の5分の1の面積であるが、森林環境譲与税を北谷におろすことはできないか。山を持っていても生活はできない。空気を浄化するように山を持っているのに、山を持っていない都会に税金をもっていかれている。今後山村や、住民を楽にするような方法を考えていただきたい。
A18	・国の方針のもと市の林業に対してやっている。農地や山村を守ることは重要なことで、北谷地区に対して、生活するようなところを守るところはしっかりとサポートさせていただく。ぜひ個別に相談していただきたい。

以上